

ボランテイア新聞

発行8月26日

夏のぶどう収穫

夏休みに入ってから、時間のある朝、涼しいうちにぶどう畑に何度もぶどうの収穫や作業をしに行きました。

まず最初にぶどうの収穫をしました。ぶどうの収穫は品種ごとにわけて収穫しました。藤稟・ベリーAなど品種がありましたが、ぶどうは収穫する前木になってる時には袋がかぶせてあって鳥や虫なんかに食べられないようになっています。



収穫はハサミで茎を切りおすだけなんだけど、食べごりまじりません。一度、ぶどうがぶどうの袋を外してぶどうが食べごろかを色で判断し

ました。ここが意外と極端に難しいなと思いました。黒色のぶどうは赤か、たり、赤い実が1つ・2つまじってたりでいくつか失敗してしまっ

箱づめから注文まで

収穫したぶどうは形を整えてから、商品用のぶくろにつめて、箱に3個入りから4個入りまでつく

りました。僕はぶどうを箱に入れた前、ぶどうの形がくずれないように白いあみのようなカバーをつけた。ぶどうの箱を組み立てたり、箱につめたり、色んな仕事をしました。ぶどうは商品として売

りだすためには、ぶどうの見ためがよくみえるようなカバーのつけかたや箱につめるつめ方などにきまりがあって、そういうのを初めてして、驚きました。

ぶどうの注文があったら、宅急便の伝票をかきました。伝票をかけたのは初めてで二・三十枚かきました。



感想

このぶどうの仕事は夏休み後半に入ってからほぼ毎朝だった。たのびんどん作業になれてはやくでさるようになりました。ぶどうを家でたべることはあるけれど商品としてのぶどうが収穫してからも手間をかけて売り場にだされるのがよくわかりました。と同時に僕が手伝ったぶどうを買ってもらうのかわれしかったです。買い物をするときは商品の裏に作り手の苦勞が思いがつかま。てると思。たので感謝したいです。

